



医療イノベーション5か年戦略の着実な推進

5. イノベーションの適切な評価

1億円

医療技術の費用対効果評価のためのデータベース整備

1億円

【課題】

- 医療保険制度においては、従来、安全性・有効性を中心に評価を行ってきたが、費用対効果については具体的な判断基準を設けずに、保険収載や保険償還価格を決定してきたため、イノベーションを適切に評価するためにも、今後、費用対効果も評価し、効果に見合った保険償還を行う仕組みが必要である。

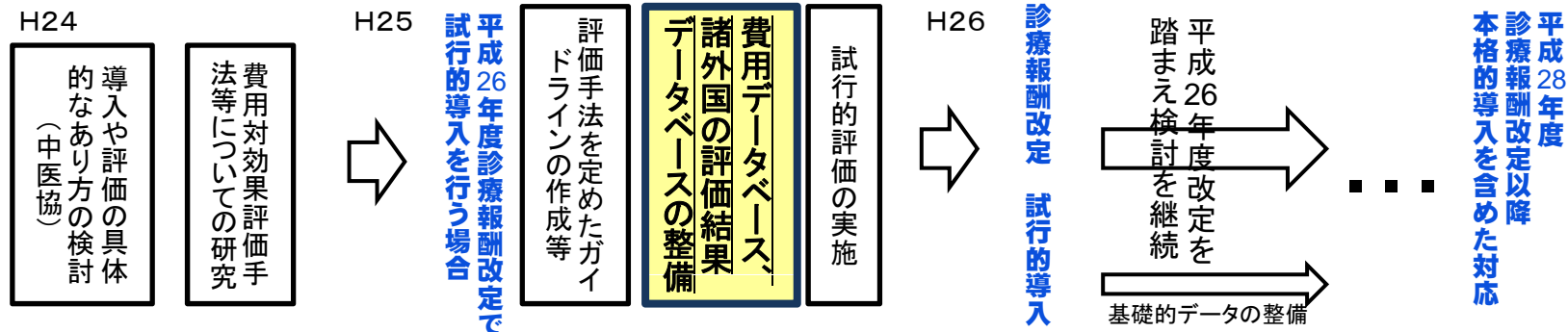
「革新的医薬品・医療機器の開発のためのインセンティブを高めるため、保険適用の評価に際し、適切にイノベーションを評価する」

(平成24年6月6日 医療イノベーション5か年戦略)

「保険償還価格の設定における医療経済的な観点を踏まえたイノベーションの評価等のさらなる検討を行う」

(平成24年2月17日閣議決定 税と社会保障一体改革大綱)

- 医療技術(医薬品、医療機器及び医療者等の技術(手術、検査等))の費用対効果評価について、中央社会保険医療協議会での検討を開始。



【事業内容】

- 個別の医療技術の費用対効果を評価する際に必要となる、疾患毎の医療費を計算し、費用データを算出するためのデータベースの整備を行う。
- 海外における費用対効果評価事例を収集したデータベース整備を行う。

- 現在行われている費用対効果の評価に関する検討に資する
- 作業が効率化され、多数の技術を少ない費用で評価可能となる。